チョーク一本で教育改革を

－第 4 回全国模擬授業大会で考える－

開倫塾
塾長　林明夫

Q：今年も全国模擬授業大会を開催したそうですね。

A：(林明夫：以下省略)6 月 7 日(日)に栃木県足利市にある白鷗大学足利高校富田キャンパスの新しい校舎をお借りして開催しましたところ、全国から 300 名もの参加がありました。主催は、開倫塾の付属機関である企業としての社会貢献活動推進担当の開倫研究所でした。

Q：なぜ、毎年足利市で開催するのですか。

A：足利市には、足利学校があるからです。足利学校には、足利時代(室町時代)の末期に全国から 3000 人もの学僧が集い、当時最先端の儒学、易学、天文学、医学、兵学を学んだと伝えられており、そのテキストの多くが保存されております。「貞観の治」で長く続いた唐の時代の基礎を築いた太宗の教えを記した「貞観政要(じょうがんせいよう)」を、徳川家康は足利学校に命じ開版、つまり出版させ、江戸時代のリーダーシップの教科書にしました。

中世日本の足利時代末期から江戸時代初期にかけて学問的中心であった足利学校で学んだ学僧は、地元に帰り読み書きや学問を教えるようになり、江戸時代に全国 1 万 2 千か所にまで広がった寺子屋の基礎をつくりました。私は、足利学校を寺子屋の先生の養成機関の起源と考えます。

江戸時代の庶民の教育を支えた寺子屋を現代に引き継いだのが学習塾でありますので、学習塾の先生方の研修の場として足利学校のある足利市は最も適切かと判断しました。

Q：なぜ「チョーク一本で教育改革」なのですか。

A：私は、教育の成果を決定する要因は、本人の自覚と教師の力量であり、本人の自覚を促すことは教師の力量に含まれると考えます。教育の質とは、カリキュラムの質、教師の質、マネジメントの質であると考えます。

また、国際的な視野で一人ひとりの国民の基本的な能力を強化して国家の競争力を強化し、国民一人ひとりが人生において成功し、地域や国、国際社会を正常に機能する社会にもっていくことを教育改革であると考えます。

そうであるなら、教育を直接担当する先生一人ひとりの力量形成は、教育改革のために何が何でも成し遂げなければならない。教育で大切なのは、教科以外の「かくれたカリキュラム(Hidden Curriccurum ヒドン・カリキュラム)」と言われる教育活動も大事だが、教科教育も大事。教科教育の中心は教室での「授業」でありますので、授業を展開する力つまり「授業力」を自らの力で毎日少しずつでも向上させる能力こそが、先生の力量として最も求められます。その、授業の基本中の基本の一つが導入部分で、学ぶべき内容をうんなるほどとわからすこと、腑(ふ)に落ち

るようにすること、つまり「理解」させることであります。

この全国模擬授業大会では、毎年、授業をするにあたって最大のテーマの一つである導入部分の「理解」に限定した教授法を科目別に発表し合い、その技を競い合います。

教育とは、目の前にいる一人ひとりの児童・生徒・学生をどうにかしてやらなければという高い志に基づいた熱い情熱、熱情で行う精神的活動であると私は確信いたします。教育改革の基本は教師の力量の大幅向上で、これ以外にはありません。

教科教育の中心は教室での授業ですから、チョーク一本でいくらでも教育改革は可能です。先生が変われば、つまり先生の力量が大幅に向上すれば、いくらでも教育内容はよくなります。そのきっかけを一人でも多くの先生方につかんで頂きたいと考え、模擬授業大会を開かせて頂いております。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の先生方にお伝えすることはありますか。

A：先生方はじめ、この月刊私塾界、青木フォーラムを主宰なさる青木清先生のお陰で、この大会も 4 回目を迎えることができました。有難く、心から感謝申し上げます。

先生の研修として、模擬授業の効用は図り知れません。

絵画にとってデッサンはものの骨格を正確に把握するための基礎中の基礎で、ピカソも、マティスも、デッサンを年がら年中やっていたそうです。

教科を教える先生にとって、レッスン・プラン(教案)を書き上げた上で一人で模擬授業に励むことは、画家にとってのデッサンにあたるように思えてなりません。

各学習塾、予備校、私立学校においても、授業力向上のために模擬授業をすべての先生に奨励して頂きたく希望いたします。レッスン・プランを毎日書き、模擬授業を自主的に行った上で本気で授業に臨む先生が一人でも多くなれば、その学校の教育の質は大幅に向上すると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：授業力向上を含め、教え手としての力量向上のために大切なことは、「自省(自らを振り返ること)」「リフレクション」です。毎回の授業のレッスン・プランの中に、その日の反省内容を赤で書き記し、毎日、毎日読み直すこと。昨日よりは今日、今日よりは明日、少しでもよい教育ができるようにと念じながらレッスン・プランを書き続け、一人模擬授業を続けることです。この意味で、レッスン・プランは先生としての成長の歴史となります。

今月も、読めば参考になる本を一冊御紹介させて頂きます。

柳宗悦著「民芸とは何か」講談社学術文庫です。

学習塾や予備校は日本にとっての民芸、日本様式の一つのような気がしてなりません。

来年も 6 月 6 日(日)ころに第 5 回全国模擬授業大会を開催したいと計画しています。是非御参加賜りたくお願い申し上げます。

－ 2009 年 8 月 16 日記－